

研究・調査報告書

報告書番号	担当
300	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳) Sensory evaluation of alcohol-related and neutral stimuli. Psychophysical assessment of stimulus intensity. アルコール関連性または中性刺激の官能評価、刺激強度の精神生理的評価	
執筆者 Demmel R, Schrenk J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Addict Behav. 2003;28(2):353-60.	
キーワード アルコール、官能評価、刺激強度、精神生理	
要 旨 <p> アルコールに対する反応の研究は様々な結果が報告されている。アルコール常習者と健康被験者の間で薬物に関連する刺激に対して主観的応答や生理的応答に差が観察されるという報告がある一方で、両者の応答パターンには差が観察されないとする報告もある。更に、これまでの研究は自己報告と精神生理的測定を別に研究しているものが多い。このような結果は、刺激が薬物関連したものであるか、あるいは常習性とは別の中立したものか明らかではなく、その刺激強度などに関連した結果とも考えられる。そこで、本研究では経験的に評価される強度をアルコール依存症の患者と通常被験者の間で合わせ、検討を行った。方法として、被験者に、3種類のアルコール飲料（ビール、赤ワイン、シュナプス）と7つの非アルコール飲料（炭酸オレンジジュース、ジンジャエール、赤グレープジュース、レモンジュース、サングリア、水、炭酸アップルジュース）を提示し、においと味の組み合わせによるそれぞれの飲料の強度を評価してもらった。 </p> <p> その結果、明らかにアルコールは他の水や中立な味と明らかに異なって認識されていた。更に刺激強度の評価は提示のモデル（におい vs おいと味の混同）に依存していた。以上の結果を考慮すると、以前報告されたアルコールの合図反応の結果は刺激のタイプと強度の混同の程度の差に影響されている可能性が考えられる。 </p>	